

元気!! とうかい

日刊スポーツ



日刊スポーツ新聞社

〒460-0008 名古屋市中区栄1-3-3

電話(代表)052(231)1180 FAX 052(231)9995

西陵リベンジならず

元日の全国高校ラグビー

東福岡に敗れる

第88回全国ラグビー大会
3回戦が1日、大阪・花園
ラグビー場でわれ、3年
連続3度目出場の西陵(愛
知)は昨年度優勝校の東福
岡(福岡)に5-22で敗れ

た。これで東海、富山勢は
姿を消した。

選手たちには涙はなかつ
た。東福岡は、昨年度2回
戦で0-65と大敗した相手
だが、差は縮まっていた。
最大の見せ場は0-12で迎
えた前半21分、ゴール前を

けのラックから右に展開
し、最後はWT白根田雄平
(3年)が右隅に飛び込ん
でトライ、後半にもトライ
を奪われ突き離れたが、
昨年度の王者を翻さぶつ
た。
FW平均体重は今大会出
場5校中3番目に軽い75・
6キロ、それでも87・5キロの

東福岡相手に体格の差を感
じさせなかった。今チーム
は3年に1度の海外遠征を
中止、海外で実戦を積みよ
り、学校で基礎練習を反復
し、パワーアップを図って
きた。その取り組みは、縮
まった点差に現れていた。

【梶井聡】
N.O.B.藤井諒主将(3年)
は「去年は何をやってもホ
ロボロだった。今年は前半
終わってはいけないぞという思
いがあった。楽しかったで
す」。就任3年目の山田和
正監督(41)は「1年間取
しいことを言ってきたが、
選手たちはよく頑張ったと
思う。一歩前進した」と選
手たちを誇らしげに見つめ
た。

東海、富山勢姿消す

東福岡	1012-5	西陵	5-22
(福岡)	1012-0	(愛知)	5-22
GO	GO	GO	GO
TO	TO	TO	TO
PO	PO	PO	PO
反	反	反	反
27	27	27	27
野上	野上	野上	野上
FW	FW	FW	FW
HB	HB	HB	HB
TB	TB	TB	TB
FB	FB	FB	FB
上村	上村	上村	上村
山田	山田	山田	山田
加藤	加藤	加藤	加藤
水本	水本	水本	水本
白又	白又	白又	白又

西陵104点圧勝

30度目出場の西陵が、圧勝発進した。16トライを量産し、花園ではチーム初の大台突破となる104得点。大会前に3年生16人で決めた合言葉「仲間」の文字をパンツの左尻部分に縫い込んだフィフティーンが、勝れ回った。4トライを挙げたWTB小沢は「とりあえず、みんなで力を合わせることができた」と納得。2回戦は国学院久我山が相手だが「仲間を信じて頑張りたい」と話した。

3度目3ケタ失点

西陵に前半0-69、終わってみれば104失点の大敗だった。97年度は青森北に0-122、06年度は四日市農芸(三重)に5-125でともに初戦敗退。これで3度目となる100超失点の屈辱に、辰口監督は「ここ(花園)に来ることが目標ではない、ここで勝とうと思わなければ」とメンタル改革を訴えた。

西陵	TO	11	GO	7	PO	0	ST	5	GO	5	PO	0	FT	5	RT	5	RT	4
久我山	TO	0	GO	0	PO	0	ST	0	GO	0	PO	0	FT	0	RT	0	RT	0

順位	学校名	スコア	相手	会場
1	佐賀工大	137-0	富山	富山
2	四日市農芸	125-5	出	四日市
3	青森北	122-0	出	青森
4	本工大	116-3	知	本工
5	大田	113-0	米	大田
6	東海大仰光	106-3	米	東海
7	国学院久我山	105-0	四日市農芸	久我山
8	大工大	104-16	出	大工
9	西陵	104-5	出	西陵

※学校名は当時

◆最多得点 00年度大会の2回戦で佐賀工が富山(富山)から奪った137点が最多。得点差もこれが一番。3ケタ得点試合は今回の西陵で10度目だが、すべて96年度以降。92年度から1トライが4点から5点になり、95年度から全試合が30分ハーフに変更されたため大量得点試合も増えた。ちなみに74年度までは25分ハーフ、75~94年度は1回戦のみ25分、2回戦以降は30分ハーフだった。

2009年(平成21年)12月28日(月曜日)

市愛知 10

全国高校ラグビー西陵一回戦突破

大勝も選手ら反省

次は30日、全員プレーで

大阪府東大阪市の花と戦う。

園ラグビー場で二十七日に開幕した第八十九回全国高校ラグビー大会で、県代表の西陵(名古屋市)は一回戦で坂出工(香川)を104-5の大差で下した。三十日の二回戦は、Bシード校の国学院久我山(東京第一)

西陵は開始直後の稲葉貴士選手(三年)のトライを皮切りに、小沢慶選手(同)や羽野一志選手(同)らが次々とトライを決め、前半だけで69点を奪った。相手に攻撃のチャンスを与えず、一方的な試合展開で力の差を

坂出工―西陵 前半、果敢に攻め込む
西陵の羽野選手、花園ラグビー場で



見せつけた。

だが小さなミスも目立った。「得点を重ねることに欲が出て、個人プレーに走ってしまっただ。ボールを片手で持つなど基本を忘れていた」と山田和正監督(前)。三好賢太郎主将(三年)も「雑なプレーが多かった。次の試合では今日のミスをなぐさないと勝てない」と振り返った。

大量得点で勝ちながら反省点が多かったこの日の試合内容を踏まえ、西陵ラグビーの原声「全員プレー」で次戦に挑む。(福本英司)